



「京都御所之桜図巻」より

著者、年記等まったく記入なく、御所内各所に植えてある桜の場所のみ書入れがある。掲載右下図は、清所御門西とあり、品種は赤芽ヤマザクラ、左上は、中立売御門東とあり、花弁大きく旗弁も写してあり、里桜の一種であろう。全三六図あり著作者名の書入のないのが惜まれる。 亮軒記

# 花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人／小笠原 肇 発行所／名古屋園芸株式会社  
〒460-0005 名古屋市中区東様2-18-13 tel.052-931-8701  
http://nagoyaengei.co.jp/

23 4

名古屋園芸

カラフル Mother's Day



**清明** 「すべてのものが生き生きとして、清らかに見える季節」

この時期はカーネーションがおすすめです。母の日に向けて多様な品種が出回る頃。名古屋園芸では様々な品種を取り揃えてお待ちしております。普段あまり見かけないような発色のカーネーションが見つかるかも。



ブーケ ¥4,400 (税込)  
使用花材：カーネーション、バラ、  
ピパーナム、レモンリーフ

現在、1Fフロアではベースコーナーの拡充に伴い、1輪挿しから選べる花器を豊富にラインナップいたしました。また、オンラインショップにおいては二十四節気ごとのシーズナルアレンジも展開中です。今月は新生活の始まりとともに季節の花飾りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

季節の花便り

## 二十四節気の花飾り



— 清明 穀雨 —

春の陽気に包まれる4月の花便り。一年を二十四の季節に分け、四季の移り変わりを折り込んだ二十四節気。今月は「清明」と「穀雨」の季節です。季節の移ろいとともに暮らしの中に花のある風景を取り入れてみてはいかがでしょうか。

**穀雨** 「穀物を潤す春雨が降る季節」

湿度が適度に上がるこの時期は、湿地性のカラーがおすすめです。湿地を好む性質の白色カラーは潤いを感じさせてくれます。1輪でも十分な存在感。グリーンを添えてシンプルに飾ってみては。



ブーケ ¥3,850 (税込)  
使用花材：カラー、ニューサイラン

### information

#### 4月からのオススメ講座

4月からまた名古屋園芸の新しい講座カリキュラムが始まります。長く通っていただいている方はもちろん、初めての方にも楽しんでいただけるような新しいプログラムもご用意いたしました。

講座番号14 『はじめての花あそび』  
コースレッスン3回講座  
4/11、6/27、8/22 13:30~14:30

まったく花にふれたことのない方でも大丈夫！花びん活け、花束、アレンジと3回に分けてゆっくりとお話します。



他にも苔テラリウムやハーブガーデンなど名古屋園芸の新ブランド「植生活」と関連する講座もたくさんご用意しています。カリキュラムの詳細は名古屋園芸のHP、店頭で配布中のパンフレットにてご覧いただけます。気軽に植物のある暮らしを始めてみませんか？

◇お申し込みは  
花の講座専用電話 TEL: 052-937-3391  
受付時間 月～金曜日 10:00～17:00  
Webでのお申し込みは24時間OK!

名古屋園芸

こちらからもどうぞ →



## 花の博物館

第327回

### 景年寫生帖

草花一〇四 全四帖

今尾景年著 大江美之助植物解説  
昭和四五年 京都書院刊

小笠原左衛門尉亮軒

著者景年は弘化二年生れ、大正三年逝去、明治から大正にかけて活躍した四条派の日本画家、花鳥画を得意とした。植物解説者大江美之助(京都大学理学博士)の冒頭に次のように記している。  
「本図録は今尾景年の葉花写生の翻刻である。今尾景年写生帖の植物図は、植物を忠実に観察し、忠実に写生してある。従ってその植物のもつ特徴をうまく描写されている。この点、現在の植物図鑑といった写生である。」  
この様に解説を加えておられ、四帖(各帖約五十図以上)全二百十六図を集録されている。全体の1/3種は彩色され、あとは墨の線描図である。  
掲載図は、一帖の二十九図(ハダカムギ)で、解説には「ハダカムギは、果実と殻とが容易に分離する点がオオムギと異なる。」二百数種の図の中で本図を選んだのは、自分の思い出と重なったからである。  
昭和二十年三月十九日、米軍のB29による大空襲により、私の実家である宗円寺は全焼(現名古屋園芸南隣)小学五年生の学期末であった。その後終戦となり、焼跡や庭跡等を開墾し俄か農地となし、家庭菜園として農業の真似ごとをして食糧難の一助とした。その栽培種の一つにこのハダカムギを作り、六月中旬の収穫後は、ホウロクで煎って粉引石臼で引き、香煎(関西ではハッタイ粉)熱い番茶で練って食べた。その時の美味しかったことを思い出したからである。

## 原種・着生ランの世界

花の美しさもさることながら、ワイルドな株姿や長く伸びる根など、インテリアグリーンとしても注目を集めている原種のランや着生ラン。

「ランって育てるのが難しそう」というイメージもあると思います。でも、ラン科の植物の生態を知ると意外とそんなことないんです。

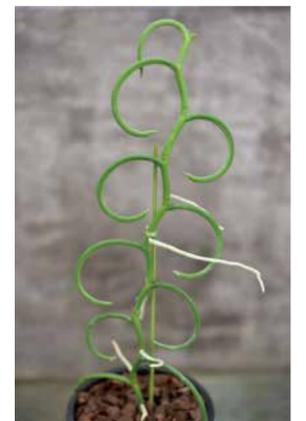
ラン科の植物は、植物の中では最も新しく地球に現れた植物グループと言われています。しかし、ラン科の植物が地球上に登場したころにはほとんどの場所が他の植物に占領されていました。生きていくためには条件の悪い限られた場所しか残っておらず、そんな厳しい環境で生き残っていくために多種多様な形に進化してきたのです。突拍子の無い形に見える株姿や葉・花も、自らが生き残っていくため、種を残していくために必要な形をしているのです。

着生ランと呼ばれる樹上や岩などに根を張って生きているランは、雨などから水分を得て、晴れると乾くを繰り返しています。過酷な環境で育つラン科の植物はとても我慢強く、育てやすい植物とも言えます。

ぜひ一度手に取って多様性溢れる原種・着生ランの世界を楽しんでみてください。



① Chiloschista parishii 'Supanburi' キロシスタ パリシー 'スパンブリ' 無葉ランと呼ばれる葉をつけない着生ラン。根で光合成も行い成長していきます。花付きも良く毎年、2~3本ほどの花芽をつけてくれます。



② Papilionathe 'Olympics ring' パピリオナンセ 'オリンピックリング' クルッと葉がカールするレア品種。オリンピックの五輪のように見えることからこの名前が付けました。株姿も面白いですが、冬には花も楽しめます。